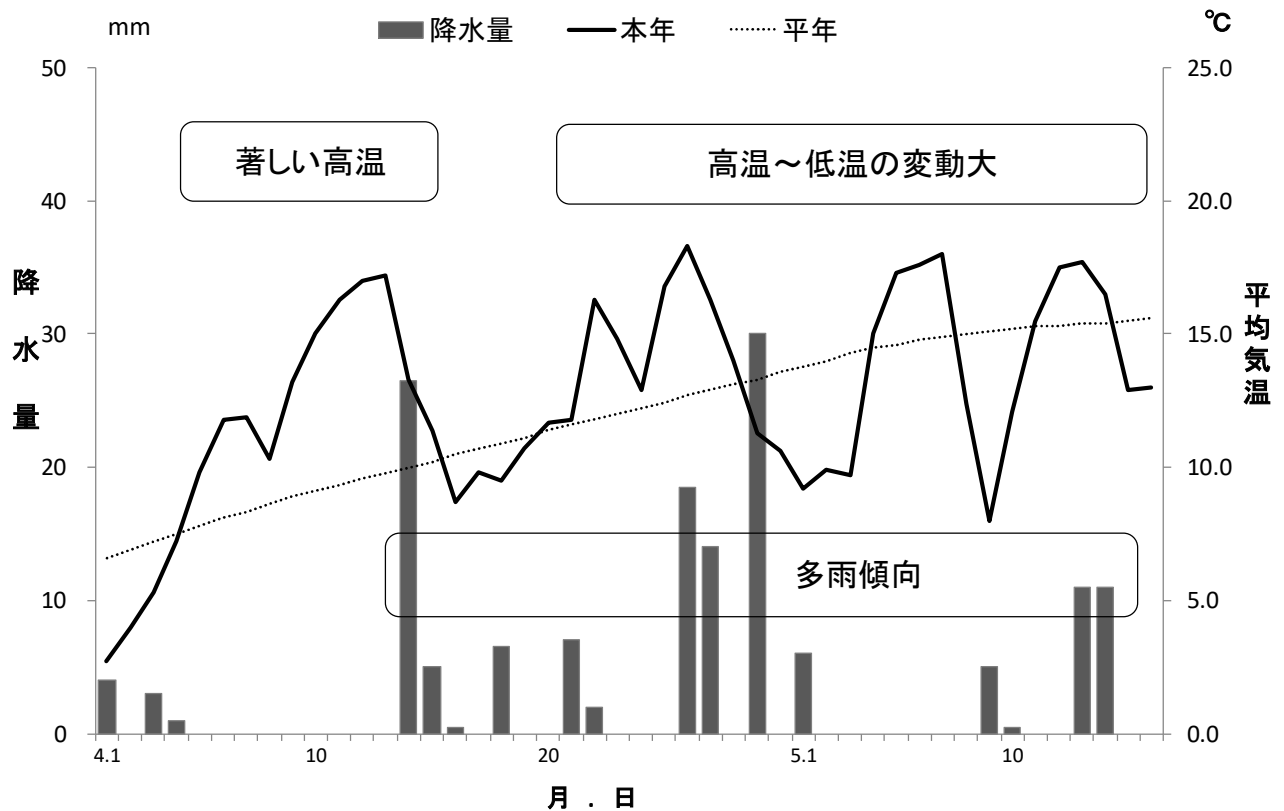


令和4年 作物技術普及情報 第7号

(麦の生育状況・成熟期予測・水稲の本田管理について)

1 気象状況

令和4年 気象経過(穂高アメダス 4月1日~5月16日)



5月は高温~低温の変動の大きい状況が続いています。また降水量が多く、5月中旬は日照時間も少ない状況です。
 今後は平年並~やや高い気温が予想されています。

2 麦の生育状況

- 5月18日現在、生育の良好な圃場の現在の生育ステージは、以下の通りです。断続的な低温の影響を受けていますが、生育は平年より3～4日程度進んでいると思われます。

【大 麦】 登熟中期（一部でのげの変色が始まっています）
【小 麦】 開花盛期～開花終期

出穂ムラの大きい圃場が目立ち、大麦では4月末の大雨で部分的に倒伏している圃場もあります。

- 5～6月の気温は平年並みから高いと予想されており、大麦の成熟期は平年よりやや早く、6月初旬より成熟・収穫を迎えると予想されます。

5月16日現在の積算気温による成熟期の推定をご活用いただき、コンバインや乾燥施設の稼働準備を早めに進めるようお願いいたします。

- 成熟期は麦の生育状況や今後の気象状況で前後します。根の生育の劣る圃場や極端にやせた圃場では、予想より成熟が早まる可能性があります。

また登熟期間中に気温が高く、降雨の少ない状況が続くと、予想より成熟が早まる可能性があります（例 平成27年）。

- 出穂ムラの大きい圃場では、成熟ムラも大きくなります（例 令和3年）。今年も収穫開始時期の判断が重要なポイントになると思います。

このため、今後の生育状況にご注意いただき、収穫の目合わせの回数を増やすなど適期収穫に向けた取り組みをお願いします。

- 畔回りにカラスノエンドウの多い圃場が散見されます。カラスノエンドウの種子が麦に混入して問題となる事例があるので、収穫前の畦畔の草刈りの徹底をお願いします。

【参考】 登熟積算気温による大・小麦の成熟期の推定(5月16日現在)

成熟期までの積算気温を大麦は650～700℃、小麦は850～900℃として推定しています。
平均気温は穂高アメダス値です。5月16日までは本年値、以降は平年値を用いています。

月 日	平均気温	大 麦				小 麦				
4月20日	11.7	4月20日出穂圃場								
4月21日	11.8		12							
4月22日	16.3		28							
4月23日	14.8		43							
4月24日	12.9		56							
4月25日	16.8		73	4月25日出穂圃場						
4月26日	18.3		91		18					
4月27日	16.3		107		35					
4月28日	14.0		121		49					
4月29日	11.3		133		60					
4月30日	10.6		143		71	4月30日出穂圃場				
5月1日	9.2		152		80	9	5月1日出穂圃場			
5月2日	9.9		162		90	19		10		
5月3日	9.7		172		99	29		20		
5月4日	15.0		187		114	44		35		
5月5日	17.3		204		132	61	52	5月5日出穂圃場		
5月6日	17.6		222		149	79	70		18	
5月7日	18.0		240		167	97	88		36	
5月8日	12.4		252		180	109	100		48	
5月9日	8.0		260		188	117	108		56	
5月10日	12.1		272		200	129	120	68	5月10日出穂圃場	
5月11日	15.5		288		215	145	136	84		16
5月12日	17.5		305		233	162	153	101		33
5月13日	17.7		323		250	180	171	119		51
5月14日	16.5		340		267	196	187	135		67
5月15日	12.9		352		280	209	200	148		80
5月16日	13.0		365		293	222	213	161		93
5月31日	17.7		615		543	472	463	411		343
6月1日	17.9		633		561	490	481	429		361
6月2日	18.0	成	651		579	508	499	447		379
6月3日	18.2	成	669		597	526	517	465		397
6月4日	18.3	成	688		615	545	535	484		415
6月5日	18.5	成	706		634	563	554	502		434
6月6日	18.6		725	成	652	582	573	521		453
6月7日	18.8		744	成	671	601	591	539		471
6月8日	18.9		763	成	690	619	610	558		490
6月9日	19.0		782	成	709	638	629	577		509
6月10日	19.1		801		728	成 658	648	596		528
6月11日	19.2		820		747	成 677	668	616		548
6月12日	19.4		839		767	成 696	687	635		567
6月13日	19.5		859		786	成 716	706	655		586
6月14日	19.6		878		806		726	674		606
6月15日	19.7						746	694		626
6月16日	19.8						766	714		646
6月17日	19.9						785	734		665
6月18日	20.0						805	754		685
6月19日	20.1						826	774		706
6月20日	20.2						846	794		726
6月21日	20.3						成 866	814		746
6月22日	20.4						成 886	835		766
6月23日	20.5						成 907	成 855		787
6月24日	20.6						928	成 876		808
6月25日	20.8						948	成 896		828
6月26日	20.9						969	成 917		849
6月27日	21.0						990	938	成	870
6月28日	21.1						1011	959	成	891
6月29日	21.3						1033	981	成	913
6月30日	21.4						1054	1002		934

3 麦の病害について

(1) 麦の赤かび病について

- 5月16日現在、大麦では出穂期、小麦では開花期前半に感染しやすい条件に遭遇しており、注意が必要な状況です（下記5月16日現在の赤かび病感染リスクの判定をご覧ください）。
- 今後気温が高めに推移し、降雨があると赤かび病が発生する場合も考えられます。特に開花後2週間にあたる5月末までは注意が必要と思われる。また5月末から圃場を巡回していただき、発生の有無の確認をお願いします。
- 「赤かび病発生ゼロ、被害粒混入ゼロ」を目標に、生産者、生産集団へのご指導をお願いします。対策等につきましては、前回お送りした「コムギ赤かび病の防除を徹底しましょう」チラシをご活用下さい

5月16日現在 赤かび病感染リスクの判定
（平22技術情報より作成）

月日	連続 降水時間	降水期間 中の平均 気温	感染 リスク	生育ステージ	
				大麦	小麦
4月20日				出穂 ～ 穂揃期	
4月21日	7	10.9	なし		
4月22日					
4月23日					
4月24日					
4月25日					
4月26日	17	18.6	注意		
4月27日					
4月28日				開花期	
4月29日	8	10.3	なし		
4月30日					
5月1日	7	9.8	なし		
5月2日					
5月3日					
5月4日					
5月5日					
5月6日				出穂 ～ 穂揃期	
5月7日					
5月8日					
5月9日	4	8.3	なし		
5月10日	1	5.0	なし		
5月11日					
5月12日					
5月13日	1	15.5	なし		
5月14日	15	17.0	注意		
5月15日				開花期 (予測)	
5月16日					
5月17日					
5月18日					
5月19日					
5月20日					

(2) うどんこ病について

発生の少ない状況でしたが、ゆめきらり等のうどんこ病に弱い品種で発生が増えてきました。

今後発生が拡大する恐れもありますのでご注意ください、多発した場合は「令和4年度農作物病害虫・雑草防除基準」に記載のある薬剤による防除をお願いします。

4 水稲の本田初期の管理

(1) 本田初期の水管理の徹底

- 活着は良好ですが、連休前半が低温傾向だったため、この期間に移植された圃場では活着がやや遅れ、葉先の黄化が目立つ圃場があります。
- 移植後は3～4 cmのやや深水管理として、強風や低温による植えいたみを防ぎ、新根が出て活着したら、2～3 cmの浅水管理として初期生育と分けつの促進を図るようにご指導ください。
- 今後高温になると地温上昇で「ガスわき」が発生し、根傷みで分けつが抑制されたり、表層剥離が多発することも予想されます。
ワキの多い水田や表層剥離が多発した水田は軽く落水する。分けつが抑制された水田では浅水管理する・・・等、水稲の生育状況に合わせた水管理の徹底をお願いします。

(2) 除草剤の処理について

- 雑草の発生が始まっている圃場が散見されます。
ヒエやホタルイは葉令が進んでから気づく場合が多いです。
このため、除草剤を処理して7日位後に圃場状況を必ず確認するようにご指導ください。
残草状況によっては、中期剤の対応をお願いします。